



公益財団法人

2016 年度

渥美国際交流財団年報

ATSUMI INTERNATIONAL FOUNDATION
ANNUAL REPORT 2016



渥美健夫
(1919-1993)

渥 美国際交流奨学財団は故渥美健夫鹿島建設
名誉会長の遺志に基づき日本の国際化の推
進にささやかながらもお役に立ちたいとい
う願いをこめて、1994年4月1日に設立されました。

当財団は諸外国から日本の大学院に留学している優
秀な学生に奨学援助をいたします。日本にやって来た
留学生の皆さんが、学問を成就するだけでなく、豊か
な文化や社会に触れ、より大きな収穫を得ることがで
きますようお手伝いさせていただきたいと思います。

若者たちがより大きな世界を知るよう支援させてい
ただくことによって、人々の心の中に国際理解と親善
の芽が生まれ、やがては世界平和への道が開かれてゆ
くことを願っております。

目次

CONTENTS

理事長挨拶 2

■ 奨学事業 3

渥美奨学金の概要 4

2016年度渥美奨学生（22期生）研究報告会 5

真夏の夜のバーベキューパーティー 7

特別講演会「福島原発事故に学ぶ」 7

新年会 7

ラクーン会 8

■ 国際交流事業 9

SGRA の概要 10

第3回アジア未来会議 11

第52回 SGRA フォーラム「日・中・韓における国史たちの対話の可能性（1）」

第53回 SGRA フォーラム「東南アジアの社会環境の変化と宗教の役割」

第54回 SGRA フォーラム「人とロボットの共生社会をめざして」

第6回日台アジア未来フォーラム「東アジアにおける知の交流」 16

第10回 SGRA チャイナ・フォーラム「東アジア広域文化史の試み」 17

第21回・第22回日比共有型成長セミナー 18

第16回日韓アジア未来フォーラム「日中韓の国際開発協力」 19

第55回 SGRA フォーラム「戦後日本の平和論」 19

第51回 SGRA フォーラム「今、再び平和について」 20

第56回 SGRA フォーラム「人を幸せにするロボット」 21

第9回 SGRA カフェ「難民を助ける」 22

第5回 SGRA ふくしまスタディツアー「帰還に挑む」 22

第5回 SGRA ワークショップ in 蓼科「地球市民って誰？」 23

■ 財団運営

業務日誌 24

財務諸表 25

財団人名簿 26

奨学生名簿 27

2016年度の活動にご協力いただいた皆様 32

ごあいさつ

理事長 渥美伊都子

2016年度も、奨学事業・国際交流事業ともに充実し、つつがなく終了することができました。ご支援、ご協力いただいた方々に、心より感謝いたします。



当財団は博士号の取得をめざす外国人留学生に対する奨学事業を23年間続けておりますが、奨学生のありようにも少しずつ変化が起きているように思います。

これまでの渥美奨学生の多くは、東アジア出身の方々に占められていましたが、近年の傾向として、ヨーロッパ、アメリカ、南アメリカ、中東、アフリカなど様々な地域の方々が加わるようになってまいりました。また、アジア出身の方々でも、一旦アメリカやヨーロッパに留学した後に日本に留学される方々、あるいは海外の大学に籍を置きながら、日本に数年留学し、研究を重ねる方々も増えています。こうした傾向は渥美財団の奨学生に特有なのか、あるいは一般的な傾向なのかはわかりませんが、複数の国境を軽々と越える留学生、若手研究者が増えて行くことは、素晴らしいと思いますし、こうした方々とネットワークを築いていくことは大きな喜びでもあり、大きな財産でもあると思います。

おかげさまで、2016年度も活発な国際交流事業が展開されました。最も大きな事業は9月末に北九州市で開催した第3回アジア未来会議でした。登録参加者は20ヶ国から397名、共催してくださった北九州市立大学の職員の方々、学生ボランティアの皆さんを含めると500名を超える方々が集い、様々なプログラムが展開されました。準備や運営にあたっては、世界各地の大学や研究機関で活躍している元渥美奨学生の皆さんたちがお手伝いくださり、また、「日・中・韓における国史たちの対話の可能性 (1)」、「東南アジアの社会環境の変化と宗教の役割」、「人とロボットの共生社会をめざして」などの円卓会議やフォーラムも、元渥美奨学生の皆さんが中心となって企画実施されました。

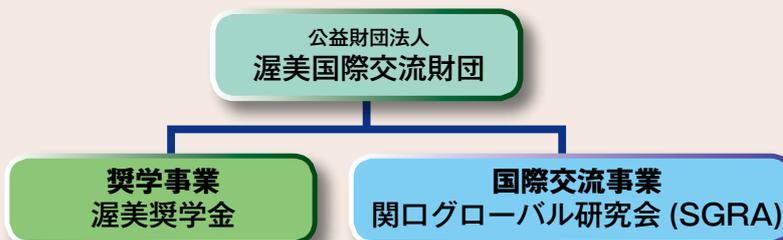
俄かに不穏な世界情勢になってまいりましたが、ラクーン会という元渥美奨学生の同窓会、そしてラクーンが中心となって展開する関口グローバル研究会 (SGRA) の活動を通じて、たとえささやかであっても、世界の平和に貢献することができましたら幸いに存じます。

今後とも、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

渥美財団のふたつの公益事業

渥美財団の事業は大きくふたつに分かれます。

奨学事業と国際交流事業 (SGRA) です。



奨学事業

奨学事業からネットワークへ

渥 国際交流財団は、奨学生の皆さんに自分とは異なる分野の人々と出会い、話し合う場を提供したいと思います。そのためにも、奨学金は必ずお目にかかってお渡しし、緊密なコミュニケーションをとりながら奨学支援を行います。奨学期間が終わった後も連絡を取り合い、ゆくゆくは世界的な規模の人的ネットワークを築けたら素晴らしいと思っています。

渥美奨学生の同窓会は、渥美健夫氏が描いていた狸にちなんでラクーン会と呼ばれています。ラクーン会は日本国内、ソウルや北京や台北などでも開催されています。

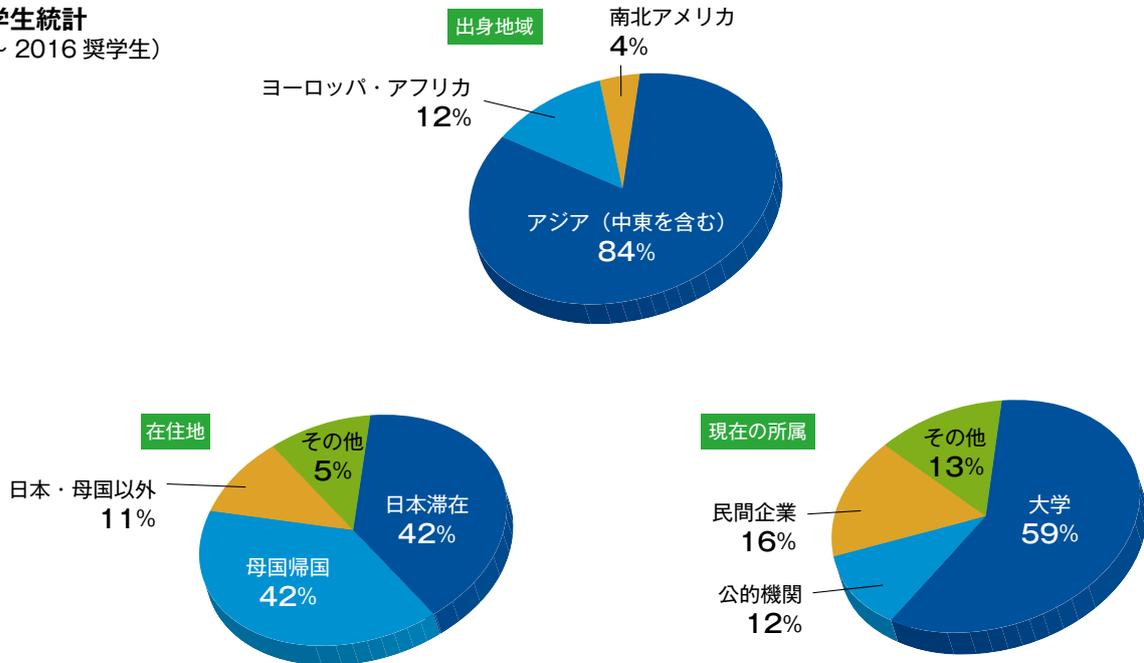
2016 年度の主な活動

- 2016 年度渥美奨学生（22 期生）研究報告会 p5
- 真夏の夜のバーベキューパーティ p7
- 特別講演会「福島原発事故に学ぶ」 p7
- 新年会 p7
- ラクーン会 p8

渥美奨学金の概要

渥 美国際交流財団は日本の大学院博士課程に在籍する留学生を対象に、毎年約12名の奨学生を募集・選考し、月額20万円の奨学金を支給しています。支給年限は1年間で、継続は認められません。奨学生の専攻分野と国籍に制限はありませんが、一分野・地域に偏らないように配慮しています。2016年度（22期生）までに、43ヶ国・地域、265人を支援してきました。

渥美奨学生統計 (1995～2016 奨学生)



応募および選考

■ 応募資格（下記のすべてに該当すること）

1. 日本以外の国籍を有し、日本の大学院の博士（後期）課程に在籍し、奨学金支給終了時に博士号を取得する見込みのある方。正現在籍年限を超えたために、或いは、他国の大学院より博士号を取得するために、研究員等として日本の大学院に在籍する方も含みます。
2. 自分の所属する大学院研究科（研究室）と自分の居住地の両方が、関東地方（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県）にある方。
3. 日本語に堪能な方（全ての応募書類と面接は日本語だけです）。
4. 国際理解と親善に関心を持ち、当財団の交流活動に積極的に参加する意志のある方。

■ 応募方法

奨学金希望者は、7月1日以後、各大学院の留学生奨学金担当課または当財団事務局まで、応募要項と申込書をご請求下さい。同日以降、財団ウェブページからもダウンロードすることができます。応募申込は毎年9月に受け付けます。

■ 選考の方法

事務局における書類と面接による予備審査の後、選考委員による書類選考と面接試験により審査します。

■ 選考の方針（抜粋）

奨学支援を機縁とした渥美財団のネットワークは、どんなにささやかではあっても世界の調和ある発展のために役立てたいと考えています。そのため、人類や社会、あるいは自然との「調和ある発展」に貢献する可能性が大きいと考えられる研究を歓迎します。

2016 年度渥美奨学生 (22 期生)

研究報告会

3月4日(土)

於：鹿島新館・渥美財団ホール

本年度・来年度の奨学生、ラクーン会メンバー、指導教官の先生方など、総勢約 50 名が参加。デザイン学、政治学、歴史学、言語学、先端技術科学などの多様な分野の研究発表を聞くことができた。



一緒に頑張ってきたメンバーと、一年間の成果を発表しあう貴重な時間を前に、理事長からねぎらいの言葉がおくられた。



「15 分以内であること」「一般の人でもわかること」「パワーポイントを使うこと」の 3 点を心掛けた発表を行うことで、プレゼン力が鍛えられる。



来賓挨拶では、ラムサル・ピカスさんの指導教官・足利工業大学の松本直文教授から、文系理系が融合することの大切さが語られた。



これからは「狸」(＝ラクーン会)のネットワークでお互い支え合おうと激励する渥美財団元奨学生のシム・チュンキャットさん。



午後 2 時から 5 時間近く続いた発表会のあとは、親睦タイム。心づくしのご馳走を前に、楽しい語らいが続く。



同期の奨学生の研究についてより詳しく知ることができた。専門以外の分野と接して視野がより広がったと喜ぶ 2016 期生たち。

2016 年度奨学生の発表テーマ一覧

現代台湾社会における親日感情の構築と日本の記号化：哈日族と哈日現象の分析を通じて

張 瑋容

Chang, Wei-Jung (台湾)

お茶の水女子大学大学院
ジェンダー学際



異なる環境条件に関するロバストな高性能顔検出器の開発

Lamsal, Bikash

ラムサル、ピカス (ネパール)

足利工業大学大学院
<博士> 情報・生産工学



中国の海洋進出と日本の防衛政策の見直し：戦略環境の変化に対する日本の脅威認識を中心に

曹 娥羅

Cho, Ahra (韓国)

ソウル大学 (慶應義塾大学) 大学院
国際地域学



文字の太さと印象の関係

李志炯

Lee, Ji Hyeong (韓国)

千葉大学大学院
デザイン科学



作品における「おひとりさま」について

崔ユリナ

Choi, Yurina (韓国)

武蔵野美術大学大学院
造形芸術



谷崎潤一郎における中日比較文学研究

林 茜茜

Lin, Qian Qian (中国)

早稲田大学大学院
<博士> 教科教育学



朝鮮王朝の中国史書編纂から見た朝鮮型中華主義

洪 性珉

Hong, Sung-min (韓国)

早稲田大学大学院
<博士> 人文科学



古代日本における「ふるさと」：その表象と意味をめぐって

Morrison, Lindsay Ray

モリソン、リンジー レイ (アメリカ)

国際基督教大学大学院
アーツ・サイエンス



現代日本の「働きかけ構文」の研究：「意味」と「構文」の関連性を探って

全 相律

Jeon, Sangryul (韓国)

東京大学大学院
言語情報科学



米軍基地とアメリカナイゼーション：米軍の文化化、米軍の軍事化、日本のアメリカ化

南 衣映

Nam, Euiyoung (韓国)

東京大学大学院
学際情報学



会沢正志斎の「神儒一致」思想

蔣 建偉

Jiang, Jianwei (中国)

早稲田大学大学院
人文科学



関東大震災時における日本政府と朝鮮総督府の「情報処理」

盧 ジュウン

Noh, Joeeun (韓国)

東京大学大学院
学際情報学



真夏の夜の BBQ パーティー

7月22日(金)

於：鹿島新館・渥美財団ホール

2016年度奨学生をはじめ、ラクーン会メンバーとその家族、ふだんお世話になっている財団関係者の方々など、総勢50名近くが集まった。火の上でこんがり焼けていく多種多様な具材や、皆が持ち寄った「お国自慢」料理に舌鼓を打ちながら、親睦を深めた。



料理はどれもおいしく、韓国の南さんのサラダはそれぞれバーベキューの焼き肉にぴったり。アメリカのリンジーさんのラタトゥイユはフランスパンとよくあった。ピカスさんのカレーを食べていると、ネパールを旅したくなった。

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/> 07.23 真夏の夜の BBQ パーティー 参照。

特別講演会 「福島原発事故に学ぶ」

11月2日(水)

於：鹿島新館・渥美財団ホール

2011年の東日本大震災からすでに5年余り。原発の問題はいまだに解決されていない。いったい福島で何が起きていたのか、何が問題だったのか。東京大学名誉教授の畑村洋太郎先生をお迎えし、その答えとなる根本的な原因についてご教授いただいた。



畑村先生は、「人間は「見たくないものは見えない、見たいものだけが見える」という心理が働くため、想定不足や準備不足による事故に陥りやすい」と指摘。それを踏まえうえで、このような事故を防ぐには、危険に直面しても議論できる文化の醸成が必要。自分の目で見て自分の頭で考えて判断・行動できる個人を作り、真のリーダーを育てなければならぬと訴えた。

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/> 2016.11.02 渥美奨学生の集い2016 参照。

新年会

1月21日(土)

於：鹿島新館・渥美財団ホール

今年度奨学生やラクーン会の皆が朝から集まり、餅つきや餃子作りをするなど、鹿島新館のホールは新年会が始まる前から賑やかな雰囲気にも包まれた。テーブルには中国チームの水餃子、ネパールチームのカレー、インドネシアチームの揚げ餃子など世界各地の料理が並び、世界各地にラクーンがいることが実感できるひとときとなった。



新年会とともに、2016年度奨学生たちが密かに理事長の89歳のお誕生日をお祝いするイベントを準備。理事長の笑顔の写真を入れたケーキを用意して、皆でパースデーソングを歌いながら、奨学生の心を込めたケーキと華やかな花束が贈られた。

詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/> 2017.01.21 2017年新年会報告 参照。

ラクーン会

世界各地で開催される渥美奨学生の同窓会、通称「ラクーン会」。2016年度は、新宿、台北、ソウルを舞台に、4度開催され、楽しい時間が過ぎていった。

2012・2015年ミニ・ラクーン会@新宿 4月20日(水)



アメリカ・ミネアポリス美術館に勤務するアロンさんの来日に合わせて、ミニ・ラクーン会を開催。ソイヤ・デルさん(2012年狸)、ユー・グロリア・ヤンさん、フランク・フェルテンズさん(共に2015年狸)、アロンさんとソイヤさんの友人のあや子さんと財団スタッフが集った。

ラクーン会@台北 5月22日(日)



第6回日台アジア未来フォーラムの翌日、今西淳子常務理事を囲んで、台湾ラクーン会が開かれた。写真左から、楊接期さん、蔡英欣さん御一家、張桂娥さん、陳姿菁さん、謝惠貞さん、今西淳子常務理事、梁蘊嫻夫婦、セン彩鳳さん御一家、本多康子さん、楊ユーさん。

韓国ラクーン会@ソウル2016 6月12日(日)



常務理事の今西さん、事務局長の角田さんのソウル訪問に合わせて開催された韓国ラクーン会(KSR)。朴哲主さん(95狸)、李來賛さん、南基正さん、金雄熙さん(以上3名は96狸)、蔡相憲さん(03狸)、李垠庚さん(07狸)、金銀恵さん、鄭淳一(以上2名は11狸)の10名が参加した。

2005年ミニ・ラクーン会@新宿 2017年3月6日(月)



香港へ帰省する途中で東京に寄ったケビン・ウォンさんの呼びかけで、2005狸のミニラクーン会が開催され、現在東京に住んでいる2005狸全員(金範洙さん、王雪萍さん、ヴォー・チー・コンさん)が集合。



詳細は AISF ニュース <http://www.aisf.or.jp/jp/>
04.20 2012・2015年ミニ・ラクーン会 in 新宿
05.22 ラクーン会 in 台北
06.12 韓国ラクーン会 in ソウル 2016
2017.03.06 2005年ミニ・ラクーン会@新宿 参照。

国際交流事業

良き地球市民の実現をめざす

渥 美財団の国際交流活動の中心を担うのが、SGRA（関口グローバル研究会）です。SGRAは世界各国から渡日し、長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、地球社会の平和と調和ある発展に寄与する研究を推進する学術交流事業を行い、その成果を会議、フォーラム、レポート、ホームページ等で広く世界に発信しています。また日本国内だけでなくアジアを中心に海外拠点を設けて活動しています。

SGRAは、ある一定分野の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な研究交流活動を狙いとしています。良き地球市民に貢献することがSGRAの目標です。

2016 年度の主な活動

- 第3回アジア未来会議 p11～15
 - 第52回SGRAフォーラム p12
 - 第53回SGRAフォーラム p13
 - 第54回SGRAフォーラム p13
- 第6回日台アジア未来フォーラム p16
- 第10回SGRAチャイナ・フォーラム p17
- 第21回・第22回
日比共有型成長セミナー p18
- 第16回日韓アジア未来フォーラム p19
- 第55回SGRAフォーラム p19
- 第51回SGRAフォーラム p20
- 第56回SGRAフォーラム p21
- 第9回SGRAカフェ p22
- 第5回SGRAふくしまスタディツアー p22
- 第5回SGRAワークショップ in 蓼科 p23

SGRAの概要

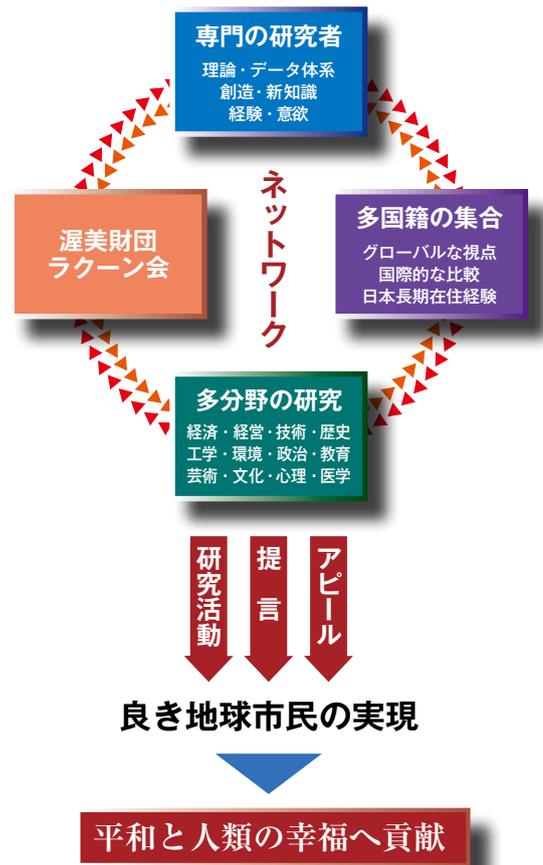


SGRAは、渥美財団の事業資金と法人・個人からの寄附金、諸機関からの各プロジェクトに対する助成金、その他の収入を運営資金として、運営委員会、プロジェクトチーム、編集チームによって活動を展開しています。

1. 運営委員会は、本会の運営に関する重要事項について決議します。
2. 運営委員会は、本会の目指す目標に合致する研究カテゴリーを選定し、適宜にプロジェクトチームを編成し、事業を推進します。
3. プロジェクトチームは、SGRAメンバーにより構成され、必要に応じて他の参加者を求め、事業を推進し、広く情報発信を行います。
4. プロジェクトチームは、個別プロジェクトの実施組織として編成されます。

SGRAは、渥美国際交流財団関口グローバル研究会（Sekiguthi global Research Association）の略称です。渥美財団の所在地である東京都文京区関口から世界に向かってグローバルな課題を発信します。

SGRAの特徴



主な事業

アジア未来会議

日本に留学経験のある研究者、日本に関心のある若手研究者、学生が一堂に集い、アジアの未来、地球社会の未来を学際的・国際的な視点から語り合う《場／プラットフォーム》です。2012年度から隔年度にアジアの主要都市で開催されています。

海外の研究機関等との共同プロジェクト

■ 日台アジア未来フォーラム

台湾の大学と共同で毎年開催。日本、台湾に共通する社会科学、人文科学のテーマを考察するフォーラム。

■ SGRA チャイナ・フォーラム

中国各地の大学や研究機関と共同で毎年開催。多角的な文化交流史の再検討や、交流の過去、現在、未来を俯瞰するフォーラム。

■ 日韓アジア未来フォーラム

韓国（財）未来人力研究院との共同開催。社会科学や人文科学における諸課題を複眼的に考察するフォーラム。

■ 日比共有型成長セミナー

1970年代に日本が成し遂げた「共有型成長」の研究をキーに据え、フィリピンにおける諸課題を検討するセミナー。

SGRA フォーラムなどの学術交流事業

以下の8つのカテゴリーから導き出されるテーマに沿った円卓会議やフォーラムなどの学術交流活動を行います。

- ・グローバル化と地球市民
- ・構想アジア
- ・環境とエネルギー
- ・科学技術と人間社会
- ・東アジアの人材育成
- ・東アジアの安全保障と世界平和
- ・宗教と現代社会
- ・ジェンダーと社会

SGRA スタディツアーや

SGRA カフェなど

「SGRA ふくしまスタディツアー」やSGRA カフェ、SGRA ワークショップなどを随時実施しています。

第3回アジア未来会議

環境と共生

会期：2016年9月29日（木）～10月3日（月） 場所：北九州市
主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）
共催：北九州市立大学、北九州市 後援：文部科学省、外務省
助成：国際交流基金アジアセンター、東京倶楽部、鹿島学術振興財団、北九州市
協力：九州経済連合会、アジア成長研究所
協賛：西日本産業貿易コンベンション協会、麻生セメント（株）、九州電力（株）、九州旅客鉄道（株）、コクヨ（株）、（株）ゼンリン、第一交通産業（株）、中外製薬（株）、西日本鉄道（株）、（株）テノ・コーポレーション、TOTO（株）、本庄国際奨学財団、（株）三井住友銀行、米良電機産業（株）、門司港運（株）、（株）安川電機、（株）山口銀行、鹿島道路（株）、カジマ・オーバーシーズ・アジア、スナヤン開発、鹿島建設（株）

日本で学んだ人や日本に関心のある人が集い、アジアの未来について語る〈場〉を提供するアジア未来会議。3回目となる今回は、創立70周年を迎えた北九州市立大学との共催で「環境と共生」をテーマに掲げて開催。登録者20カ国から397名を含む500名を超える参加者が議論を重ねた。

開会式・基調講演・シンポジウム



9月30日午後3時、北九州国際会議場メインホールにて開会式が始まり、第3回アジア未来会議を共催する北九州市立大学の近藤倫明学長の歓迎の挨拶の後、明石康大会会長が開会を宣言。引き続き、トヨタ自動車のMIRAIチーフエンジニア田中義和氏による「燃料電池自動車MIRAIの開発と水素社会の実現に向けたチャレンジ」と題した基調講演と、北九州市立大学創立70周年記念シンポジウム「持続可能な発展とアジア市民社会—水素エネルギー社会の実現を目指して—」が開催された。



開会を宣言する明石康大会会長。



トヨタ自動車のMIRAIチーフエンジニア田中義和氏による基調講演。水素エネルギー社会の到来を熱く語った。



シンポジウムでは、北九州市で環境問題に取り組む市民活動について、研究員、NPO、起業家からの活動報告が行われた。



北九州市立大学の研究成果の麹と地域民間企業のコラボが醸造する日本酒「ひびきのの杜」で鏡開きが執り行われた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/> 第3回アジア未来会議「環境と共生」報告 参照。

第3回 アジア未来会議

ウェルカムパーティー

300名を超える参加者に、鏡開きの酒が振る舞われ、ウェルカムパーティーが始まった。アジアを中心に各国から集まった参加者たちは、奇跡的に雨が止んだ中庭で、ジャズ演奏を聴きながら歓談を楽しんだり、会場にずらりと並ぶ小倉名物の屋台でB級グルメを楽しんだりした。小倉祇園太鼓の演奏が終わると、いよいよ今回の目玉イベントであるプロジェクションマッピングが始まった。北九州の1500年の歴史を3分で纏めた映像が国際会議場中庭の大壁面に放映された。



円卓会議

9月30日午前9時から12時半にかけ、関口グローバル研究会（SGRA）が担当する3つの円卓会議（第52回、第53回、第54回 SGRA フォーラム）と、アジア成長研究所が主催する AGI 経済フォーラム「アジアの人口問題と対策」が同時開催された。どの会場も大入り満員で、グローバルな課題に取り組む活発な議論が展開された。

第52回 SGRA フォーラム

日・中・韓における国史たちの対話の可能性（1）

本フォーラムは、2013年3月にバンコクで開催した第1回アジア未来会議中の円卓会議「グローバル時代の日本研究の現状と課題」をかわきりに検討を重ね、発展させたものである。テーマを絞りながら、日本人の日本史研究者、中国人の中国史研究者、韓国人の韓国史研究者の対話と交流の場を提供し、これから5回は続ける予定である。



日本、中国、韓国から歴史研究者が集まり活発な議論が交わされた。88人が定員の会場は満席で、人々の関心の高さが示された。



本プロジェクトのひとつの特徴は言葉の問題である。本会議では、【日本語⇄中国語】【日本語⇄韓国語】【中国語⇄韓国語】の3カ国同時通訳が行われた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
今西淳子「円卓会議『日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性』報告」参照。

第53回 SGRA フォーラム

東南アジアの社会環境の変化と宗教の役割

本会議においては「宗教は、各国が抱える様々な課題を克服するにあたって、重要な役割を果たすことができるのではないか、現に果たしているのではないか」とのポジティブな視点から、東南アジアの社会環境の変化に対応する宗教の役割を見直すことを目的とした。



インドネシア、フィリピン、タイ、ミャンマーからの発表が行われ、続いて宗教学者、社会学者も加わった円卓会議が行われた。



各国からの発表では、宗教のポジティブな面だけでなくネガティブな政治的社会的側面も浮き彫りにされ、その複雑さに議論が集中した。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/> エリック・シッケタンツ「円卓会議『東南アジアの社会環境の変化と宗教の役割』報告」参照。

第54回 SGRA フォーラム

人とロボットの共生社会をめざして

ロボットが日常生活の中に入る時、どのように人々とかかわり合い、どんな働きをすべきか、等の問題意識に基づき、理工系研究者の発表の後、若手の哲学、デザインの研究者を交えて、人とロボットが共生する近未来の社会を構想した。



会議は東京大学名誉教授の井上博允先生の基調講演“COBOT：Robots that collaborate with us”から始まった。7名の発表のあと、円卓会議が行われた。



ロボット技術の研究開発には、ただ技術者だけではなく哲学者やデザイナーなど理系、文系の枠を超えた学際的なアプローチが必要であることが確認された。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/> エッセイ509：ラムサル・ピカス「AFC 円卓会議『人とロボットの共生社会をめざして』で学んだこと」参照。

第3回 アジア未来会議

パラレルセッション

10月1日（土）、参加者は全員、小倉駅からモノレールで北九州市立大学北方キャンパスに移動。8つの自主セッションを含む58の分科会セッションで、225本の論文発表が行われた。各セッションは、発表者が投稿時に選んだ「平和」「幸福」「イノベーション」などのトピックに基づいて調整され、学会とは違った、国際的かつ学際的な議論が展開された。休憩時には北九州市立大学の学生やボランティアによるピアノの演奏やお茶のお点前があり、国際交流の雰囲気を盛り上げた。

●午前・午後2コマずつ、教室を15使って58の分科会を開催



●セッションの間には、優秀ポスター発表賞の審査と、演奏やお茶のお点前が行われた



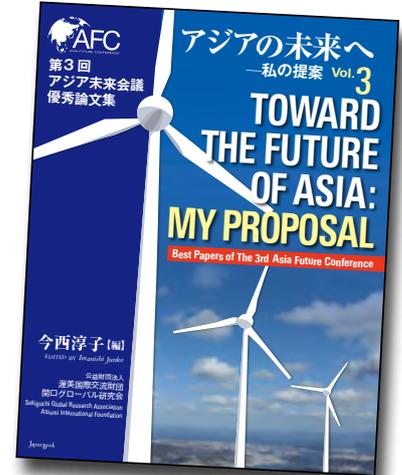
サポート体制

運営にあたっては、元渥美奨学生を中心に実行委員会、学術委員会が組織され、フォーラムの企画から、ホームページの維持管理、優秀賞の選考、当日の受付まであらゆる業務を担当。また、北九州市立大学にも実行委員会が開設され、120名を超える教員、職員、学生ボランティアのご協力をいただき、成功裡に実施することができた。



**Farewell Party /
授賞式**

フェアウェルパーティーは、10月1日午後7時から、ステーションホテル小倉において開催され、今西淳子 AFC 実行委員長の会議報告のあと、北九州市立大学の漆原朗子副大学長による乾杯で始まった。食事が終わる頃、AFC 学術委員長の平川均国士館大学教授から審査報告があり、優秀賞の授賞式が行われた。授賞式では、優秀論文の著者 20 名が表彰され、続いて、優秀ポスター賞 2 名、優秀発表賞 50 名が発表された。



『第3回アジア未来会議優秀論文集』

翌 10 月 2 日（日）は、参加者それぞれが、水俣スタディツアー、秋吉台・萩観光、北九州市内観光、北九州環境スタディツアー、温泉体験などに参加した。

パーティーの最後に、
韓国・未来人力研究院理事長の
李鎮奎高麗大学教授から、
第 4 回アジア未来会議の概要が発表された。
開催はソウルに決定！

2018年8月24日（金）～28日（火）

テーマは
平和、繁栄、そしてダイナミックな未来



第6回日台アジア未来フォーラム

東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生—

日時：2016年5月21日（土）午前9時00分～午後5時00分

会場：文藻外語大学（台湾高雄市）

主催：公益財団法人渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）、文藻外語大学日本語学科、台湾大学日本語文学学科、台湾大学日本研究センター

協賛：全日本空輸株式会社台湾支社、ケミカルグラウト株式会社（日商良基注入營造）、台湾本田汽車股份有限公司、みずほ銀行台北支店、中鹿造栄公司

近年、グローバル化の急速な進展によって、国民国家制度の恣意性が明らかになり、また様々な分野の活動にみられる多くの越境者たちの存在や異なる共同体における記憶の構築、多文化主義に見られる共生の実践など、多種多様な交流の形態はこれまでのような国家単位における知の交流の形を大きく変えてきている。本シンポジウムでは、こうした東アジアにおける知の交流の変容を、参加者たちの多様な立場とアプローチによって読み解いた。



立命館大学の西成彦教授による最初の基調講演「元日本兵の帰郷」。現代台湾・沖縄人の心象的鏡像が提示された。



次の基調講演は、直木賞受賞作家・東山彰良氏の「台湾で生まれ、日本で書く」。台湾籍をもつ越境作家としての心境が語られた。



続く研究フォーラムでは、台湾、日本、中国、そしてアメリカという4つの視点から議論を掘り下げていった。



午後からのフォーラムでは、2会場それぞれで「文学」、「言語・教育」、「歴史・文化」という三つのセッションを開催。



今回は、中国語・日本語・英語による発表が可能で、合計32本の論文発表と7本の日本語教育実践報告が行われた。



台湾、日本、韓国、中国、ドイツ、アメリカで活躍する学者たちを招き、多角的な視点から深い議論が展開された。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/> 謝惠貞「第6回日台アジア未来フォーラム『東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生—』報告」参照。

第10回 SGRA チャイナ・フォーラム

東アジア広域文化史の試み

日時：2016年9月29日（土）午後7時00分～9時00分

会場：北九州国際会議場

主催：渥美国際交流財団関関グローバル研究会（SGRA）

SGRA が毎年秋に北京を始め中国各地で開催しているフォーラムを、今回は第3回アジア未来会議にあわせて北九州市で開催。過去2回のフォーラム（2014年と2015年）の報告者とコメントーターを討論者として招き、塚本麿氏（東京大学）と孫建軍氏（北京大学）による2本の報告を基に、今後、東アジアにおける広域文化史の試みをいかに推進していくべきかについて、活発な議論が繰り広げられた。



フォーラムの議論が円滑に、かつ深まるように、開催直前に事前ミーティングが行われた。



塚本氏のテーマは「境界と国籍—“美術”作品をめぐる社会との対話—」。孫建軍氏は「日中外交文書に見られる漢字語彙の近代」。



国家の呪縛から解き放たれた後の膨大な「モノ」の世界をいかに整理し、その歴史をどのように語り得るか、これからの課題だ。



「同じ歴史観を共有することは困難だが、異なる歴史観があるという意識の共有が重要ではないか」という意見も出された。



フロアとの対話も交え、様々な専門分野の研究者による多岐にわたるコメントの焦点が明確になっていった。



今回のフォーラムを通して、新たな広域文化史を紡ぎ出すことの可能性と課題の双方が浮かび上がってきた

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
孫軍悦「第10回チャイナ・フォーラム『東アジア広域文化史の試み』@アジア未来会議報告」参照。

第21回日比共有型成長セミナー

開発研究・指導の進歩と効果を持続させるために

日時：2017年1月6日（金）～7日（土）

場所：ベンゲット州コルディリエラ行政地域

ベンゲット州立大学農業研修所にて円卓会議（1日目）、農場の現場視察（2日目）

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

SGRA Philippines

今回は、アジア未来会議から習った新しい形式で開催。SGRA フィリピンの運営委員でもある、フィリピン政府農業省の Jane Toribio 博士の研究調査の現場である、ベンゲット州（マニラ市から北へ車で約6時間の山岳地帯）を会場とし、1日目は関係者の円卓会議を、2日目は現場視察を行った。



1日目の円卓会議には約60名が参加。ベンゲット州知事の挨拶ののち、農業関係者らによる4つのプレゼンテーションが行われた。



2日目は、新しく建設された Benguet Agro-Pinoy トレードセンターを訪問。学者者と地方自治体との連携の取り組みなどを視察した。

詳細は、<http://www.aisf.or.jp/sgra/english/manilaseminar/>
「SGRA Sustainable Shared Growth Seminar 21 Report」参照（英語版）。

第22回日比共有型成長セミナー

地方分権と持続可能な共有型成長

日時：2017年2月13日（月）午前9時30分～午後3時30分

会場：フィリピン大学ロスバニョス校（UPLB）公共政策と開発学部

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

SGRA Philippines

フィリピンの持続可能な共有型成長を妨げる3つの問題は、鈍い成長、格差、環境である。一方、戦後の開発の大半は、首都に集中する経済や政治的決断に依存していたが、この20年間には地方分権を目指す様々な努力が行われている。この努力を「持続可能な共有型成長」という観点から理解し、地方分権によって上述の問題が解決できるか検討することを基本目的とした。



課題と問題点について語るダニロ・レイエス博士。



フィリピンは現在、他のASEANの国々に追い抜かれ、取り残されている。セミナー後の参加者とのディスカッションでは、地方分権化に関するさらなる研究の必要性なども挙げられた。

詳細は、<http://www.aisf.or.jp/sgra/english/manilaseminar/>
「SGRA Sustainable Shared Growth Seminar 22 Report」参照（英語版）。

第16回日韓アジア未来フォーラム

日中韓の国際開発協力

—新たなアジア型モデルの模索—

日時：2016年12月1日（木）午前10時50分～午後12時20分

会場：韓国仁川松島コンベンシア（Songdo Convensia）

主催：未来人力研究院（韓国）

共催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）



日中韓の研究者は、比較の視座に立ってアジア型開発援助モデルの収れんの可能性について論じ、夢のこもった討論が交わされた。



最後は、徐載鎮（ソ・ゼジン）未来人力研究院院長により、北朝鮮に対する開発支援の重要性に触れるコメントで締めくくられた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>

金雄熙「第16回日韓アジア未来フォーラム『日中韓の国際開発協力—新たなアジア型モデルの模索』報告」参照。

第55回SGRAフォーラム

戦後日本の平和論

—戦後日本の平和テキストを読む—

日時：2016年12月1日（木）午後1時30分～3時00分

会場：韓国仁川松島コンベンシア（Songdo Convensia）

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）



日中韓の研究者たちが集まり、戦後日本の平和テキストを東アジアの戦後史の文脈で読み直した。



国籍と専門によって知識人たちが分断されていく中、国境を横断する東アジアの平和言説を再構築することが目標である。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/> で報告する予定。

第51回 SGRA フォーラム

今、再び平和について

—平和のための東アジア知識人連帯を考える—

日時：2016年7月16日（土）午後1時30分～5時30分
会場：東京国際フォーラム ガラス棟 G701 号室
主催：渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）

東アジア各国における「平和論」の現状を確認し、各国で「何よりも平和を優先する考え方」が各個撃破されている現状を検証すると共に、こうした現状に風穴をあけるためにはいかなる方法があるのか、そのために学問をする者として、知識人として何ができるのかを議論し、「平和を語る」知識人としての研究者の役割、東アジアの知識人の連帯の意義を考えた。



本フォーラムは「平和研究または平和論という方向からの問題提起とすること」などを念頭に準備を重ね、企画された。



問題提起1では、ソウル大学日本研究所副教授の南基正氏が「平和問題談話会」の経験を東アジアのレベルで生かせるかを検証。



問題提起2では、東京大学大学院教授の木宮正史氏が東アジアの危機の原因と平和の現状を確認。知識人の役割を探った。



さらに、「平和」の現状を具体的に把握するため、日本、中国、台湾、韓国の研究者による事例報告が行われた。



それぞれの置かれた状況によって、各国の「平和」の現状と、「何を平和と認識するか」に至るまでの経緯は大きく異なる。



本音の議論が交わされ、「平和」の条件は違っても「平和」の観念には、各国で通じるものがあることが確認できた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
南基正「第51回 SGRA フォーラム『今、再び平和について』報告」参照。

第56回 SGRA フォーラム

人を幸せにするロボット

日時：2017年2月11日（土・休）午後1時30分～4時30分
会場：東京国際フォーラム ガラス棟 G501号室
主催：渥美国際交流財団関ログローバル研究会（SGRA）

今、私たちの日々の生活をサポートしてくれる「より人間らしいロボット ヒューマノイド」の開発が急ピッチで進んでいる。今回のフォーラムでは、第一線で活躍中のロボット研究者と気鋭の哲学者が集い、さまざまな疑問に答えるべく、「人を幸せにするロボットとは何か？」「人とロボットが共生する社会とは？」などを考察した。



会場には、日本のロボット研究の第一人者である東京大学の稲葉雅幸教授を始めとする工学者と新進気鋭の哲学者が集った。



基調講演『夢を目指す若者が集う大学とロボット研究開発の取り組み』で語る稲葉教授。



李周浩教授（立命館大学）は、アニメやSFの話をつなぎながら、夢と不安が交錯するロボット研究の現状を語った。



気鋭の哲学者文景楠氏（左）と物書きエンジニアとして活躍する瀬戸文美氏（右）。



「ロボットは自由意志を持てるのか」等の質問に、4名の講演者がそれぞれ見解を述べ、活発な議論が行われた。



聴衆からも「人間と同様のロボットが誕生した場合にどんな法的整備が必要になるのか」などの質問が寄せられた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
瀬戸文美「第56回 SGRA フォーラム『人を幸せにするロボット』報告」参照。

第9回 SGRA カフェ

難民を助ける一民と官を経験してー

日時：2016年4月2日（土）午後2時30分～5時00分
会場：渥美国際交流財団 / 鹿島新館ホール
主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）



1979年に始まった活動が、現在に至るまでどのように展開されてきたか、設立からの37年を凝縮し、今の時代と比較しながらご紹介いただいた。

2013年3月の第3回 SGRA カフェ「『アラブの春』とシリアにおける人道危機」が大きな反響を呼んだことを受け、今回は「難民を助ける会」の柳瀬房子氏をお招きし、37年に及ぶこれまでの活動や日本と難民支援の歴史、これからの難民支援についてご講演いただいた。



自著『地雷ではなく花をください』を手にする柳瀬房子氏。民間の立場から難民を助け、法務省難民審査参与員としても難民問題に携わった経験など、双方の立場から話を伺うことができた。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
ヴィラーグ・ヴィクトル「第9回 SGRA カフェ『難民を助ける一民と官を経験して』報告」参照。

第5回 SGRA ふくしまスタディツアー

帰還に挑む

ー何ができるのか、何をを目指すのかー

日時：2016年5月13日（金）、14日（土）、15日（日）
主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）
協力：ふくしま再生の会



参加者10名の国籍はアメリカ、イタリア、カナダ、韓国、スウェーデン、日本。「SGRA ならではの」の多様な国の人々が集まった。

SGRA では2012年から毎年、福島第一原発事故の被災地である福島県飯館村でのスタディツアーを行ってきた。そして、そのスタディツアーでの体験や考察をもとにしてSGRA ワークショップ、SGRA フォーラム、SGRA カフェなど、さまざまな形で発信を続けている。5回目となる本年も現地の方々と交流の中から、帰還・再生に向けて懸命な努力が続く「飯館村の今」を学ぶ旅となった。



試験田で除染を兼ねた代かきを手伝う参加者たち。科学的な理論と、新しいアイデアと、経験をもとにした地道な実験が続く。

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
全相律「第5回 SGRA ふくしまスタディツアー『飯館村、帰還に挑む』報告」参照。

第5回 SGRA ワークショップ in 蓼科

地球市民って誰？

日時：2016年7月1日（金）～3日（日）

会場：蓼科高原チェルトの森 東京商工会議所蓼科フォーラム

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

2013年から開催してきた本ワークショップは、小グループのディスカッションや参加型のアクティビティーを通して、参加者全員で考えるプログラム。「良き地球市民の実現」はSGRAの目標だが、実現が困難になってきたのではないかという懸念が強くなっている今、あらためて「地球市民」とは何かを語り合った。



2016年度渥美奨学生たちは新宿に集合し、バスで蓼科へ。途中、諏訪大社やガラスの美術館などを訪れた。



到着した日の夜の懇親会。アイスブレイキングのゲームが行われ、お互いを知り合ういい機会になった。



「地球市民とは何か」。欧州移民研究の第一人者、お茶の水女子大学名誉教授の宮島喬先生の基調講演を通し、認識を深める。



講演のあと、参加者は4つのグループに分かれ、グループワークを行った。



課題は2つ。まず第1に、与えられた情況について演劇が行われ、第2にその際に浮かび上がった問題点について解決策を講じるプレゼンテーションが行われた。これらの課題を通し、メンバーそれぞれの良さが発揮されたワークショップとなった

詳細は SGRA ニュース <http://www.aisf.or.jp/sgra/active/news/>
洪性珉「蓼科から地球市民を考える（第5回 SGRA 蓼科ワークショップ『地球市民って誰？』報告）」参照。

財団運営

2016年度 業務日誌

4月2日	第9回 SGRA カフェ「難民を助ける—民と官を経験して—」 (於：渥美財団ホール)
6日	4月例会最初の食事会 (於：学習院・目白倶楽部)
5月10日	5月例会：個人面談 (17日まで)
12日	第18回理事会・食事会 (於：鹿島新館 椿山荘)
13日～15日	第5回ふくしまスタディツアー「帰還に挑む—何ができるのか、何をを目指すのか—」
15日	2015年度年報発行
21日	第6回日台アジア未来フォーラム 「東アジアにおける知の交流—越境・記憶・共生—」 (於：高雄市・文藻外語大学)
6月2日	第7回評議員会 (2015年度事業報告と決算報告)・親睦会 (6月例会) (於：鹿島KIビル)
7月1日	募集要項配布 (関東地方の大学に通知、ホームページに掲載)
1日～3日	第5回 SGRA ワークショップ in 蓼科「地球市民って誰？」 (於：東京商工会議所蓼科フォーラム)
16日	第51回 SGRA フォーラム 「『今、再び平和について』—平和のための東アジア知識人連帯を考える」 (於：東京国際フォーラム) SGRA レポート# 78
22日	8月例会：真夏のバーベキュー (於：鹿島新館)
9月1日	2016年度奨学生応募受付開始
3日	9月例会：個人面談 (9日まで)
29日～ 10月3日	第3回アジア未来会議 (於：福岡県北九州市) SGRA レポート# 79 (第10回 SGRA チャイナ・フォーラム、第52～54回 SGRA フォーラム)
30日	2016年度奨学生応募締め切り (応募者総数 83名)
10月6日	10月例会：食事会 (於：Soul Food House・アメリカ南部料理)
9日～13日	2016年度奨学生書類審査
11月2日	11月例会 渥美奨学生の集い・特別講演会「福島原発事故に学ぶ」 (於：鹿島新館渥美財団ホール)
10日	2017年度奨学生候補者予備面接 (17日まで)
12月1日	第55回 SGRA フォーラム 「戦後日本の平和論—戦後日本の平和テキストを読む—」 (於：韓国仁川松島コンベンシア Songdo Convensia) 第16回日韓アジア未来フォーラム 「日中韓の国際開発協力—新たなアジア型モデルの模索—」 (於：韓国仁川松島コンベンシア Songdo Convensia) SGRA レポート# 80
12月4日	2017年度奨学生最終選考・面接
5日	12月例会：個人面談 (9日まで)
17日	第19回理事会 (於：鹿島新館) 忘年会&クリスマスパーティー (於：鹿島新館)
1月6日～7日	第21回日比共有型成長セミナー 「開発研究・指導の進歩と効果を持続させるために」 (於：フィリピン・ベンゲット州立大学農業研修所他)
21日	1月例会：新年会 (於：鹿島新館渥美財団ホール)
2月1日	2月例会：個人面談 (7日まで)
11日	第56回 SGRA フォーラム 「人とロボットの共生社会をめざして—第2回人を幸せにするロボット—」 (於：東京国際フォーラムガラス棟) SGRA レポート# 81
13日	第22回日比共有型成長セミナー 「地方分権と持続可能な共有型成長」 (於：フィリピン大学ロスバニョス校)
3月4日	3月例会：2016年度奨学生研究報告会 (於：鹿島新館渥美財団ホール)
8日	2016年度奨学生最後の食事会 (於：ホテル椿山荘東京 木春堂)

財務諸表

貸借対照表

2017年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1 流動資産	9,149,869
2 固定資産	
(1) 基本財産	3,476,187,027
(2) 特定資産	113,981,731
固定合計	3,590,168,758
資産合計	3,599,318,627
II 負債の部	
1 流動負債	3,564,639
2 固定負債	5,130,000
負債合計	8,694,639
III 正味財産の部	
1 指定正味財産	3,590,168,758
(うち基本財産への充当額)	3,476,187,027
(うち特定資産への充当額)	113,981,731
2 一般正味財産	455,230
正味財産合計	3,590,623,988
負債及び正味財産合計	3,599,318,627

正味財産増減計算書

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常損益の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	50,185,385
特定資産運用益	877,743
アジア未来会議参加費収入	16,877,713
受取補助金等	6,976,745
受取寄附金	36,697,600
雑収益	878,388
経常収益計	112,493,574
(2) 経常費用	
事業費	106,538,018
管理費	5,955,556
経常費用計	112,493,574
評価損益等調整前当期経常増減額	0
当期経常増減額	0
2. 経常外損益の部	
(1) 経常外収益	
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	455,230
一般正味財産期末残高	455,230
II 指定正味財産増減の部	
受取寄附金	3,000,000
基本財産運用益	64,000,000
基本財産評価益	80,000,000
特定資産評価損	▲ 2,176,200
一般正味財産への振替額	▲ 60,289,398
当期指定正味財産増減額	84,534,402
指定正味財産期首残高	3,505,634,356
指定正味財産期末残高	3,590,168,758
III 正味財産期末残高	3,590,623,988

評議員

渥美直紀	評議員会長、鹿島建設株式会社代表取締役副社長
明石 康	公益財団法人国際文化会館理事長
秋山 豪	鹿島建設株式会社社友
渥美雅也	一般財団法人東京水産振興会専務理事
蟻川芳子	日本女子大学名誉教授
岩崎統子	公益社団法人 CISV 日本協会副会長
加藤秀樹	一般社団法人構想日本代表
鹿取克章	外務省参与（元駐インドネシア大使）
佐藤直子	東京国際大学教授
田村次朗	慶應義塾大学法学部教授
遠山友寛	弁護士 TMI 総合法律事務所パートナー
永山 治	中外製薬株式会社代表取締役会長
堀田健介	グリーンヒル・ジャパン株式会社最高顧問
宮崎裕子	弁護士 長島・大野・常松法律事務所
八城政基	元株式会社新生銀行取締役会長
山本尚子	公益財団法人伊藤謝恩育英財団常務理事・事務局長

監事

上野 宏	株式会社村田製作所取締役
長岡美奈	公認会計士 長岡公認会計士・税理士事務所

理事

渥美伊都子	理事長
今西淳子	常務理事
片岡達治	元癌研究会研究員
金 外淑	兵庫県立大学看護学部心理学系教授
高 偉俊	北九州市立大学国際環境工学部教授
嶋津忠廣	前渥美国際交流財団事務局長
高橋 甫	公益財団法人 日本テニス協会常務理事
平川 均	名古屋大学名誉教授、国士舘大学教授
藤井純一	公益財団法人かめのり財団理事
李 恩民	桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群教授
角田英一	事務局長

選考委員

畑村洋太郎	委員長、東京大学名誉教授、工学院大学教授、畑村創造工学研究所所長 (産業機械工学)
井上博允	東京大学名誉教授、元日本学術振興会監事 (情報工学)
片岡達治	(理事) (薬学)
佐野みどり	学習院大学教授 (美術史)
田村次朗	(評議員) (法学)
平川 均	(理事) (経済学)

奨学生名簿

【1995年度奨学生】

Bambling, Michele バンプリング、ミッシェル [アメリカ] 女：コロンビア大学／慶應義塾大学 [博士] (美術史)：Zayed 大学教授 (在アブダビ)

Gao Lingna 高玲娜 [中国] 女：一橋大学 [博士] (社会学)：(在横須賀)

Gao Weijun 高偉俊 [中国] 男：早稲田大学 [博士] (建設工学)：北九州市立大学国際環境工学部教授、西安交通大学兼職教授 (在北九州)

Jin Xi 金熙 [中国] 男：東京工業大学 [博士] (物理情報学)：Sheerwood 科技発展有限公司社長 (在北京)

Kwack Jae-Woo 郭在祐 [韓国] 男：学習院大学 [博士] (美術史)：日本大学文理学部、学習院大学文学部非常勤講師

Maquito, Ferdinand マキト、フェルディナンド [フィリピン] 男：東京大学 [博士] (経済学)：テンブル大学講師

Park Chul-Ju 朴哲主 [韓国] 男：慶應大学 [博士] (商学)：三育大学経営学部副教授 (在ソウル)

Park Jung-Ran 朴貞蘭 [韓国] 女：日本女子大学 [博士] (社会福祉学)：仁済大学社会福祉科副教授 (在釜山)

Shi Jianming 施建明 [中国] 男：筑波大学 [博士] (数理工学／社会学)：東京理科大学経営学部教授

Yao Hui 葉会 [中国] 男：早稲田大学 (日本文学)：法政大学国際文化情報学部非常勤講師

Youn Seok-Hee 尹錫姫 [韓国] 女：専修大学 [博士] (商学)：仁徳大学観光学部非常勤講師 (在ソウル)

○阪神大震災被災特別奨学生

Chen Xiao 陳曉 [中国] 男：神戸大学 (医学)

Hong Der-Juinn 洪徳俊 [台湾] 男：神戸大学 [博士] (経営学)：国立中央大学企業管理系副教授 (在台湾桃園)

Wang Libin 王立彬 [中国] 男：神戸大学 (自然科学)：(株)東洋インキ製造 (在上海)

【1996年度奨学生】

Chantachote, Viravat チャンタチョテ ピラバット [タイ] 男：慶應義塾大学 [博士] (法学)：タマサート大学法学部准教授 (在バンコク)

Gulench, Selim Yucel グランチ、セリム [トルコ] 男：東京大学 (政治学)：コンヤ市庁国際関係・観光部 (在トルコ コンヤ市)

Khin Maung Htwe キン マウン トウエ [ミャンマー] 男：早稲田大学 [博士] (応用物理)：Hotel AKIMOMI 社長 (在マンダレー)

Kim Woong-Hee 金雄熙 [韓国] 男：筑波大学 [博士] (国際政治経済学)：仁荷大学国際通商学部教授／獨協大学外国学部交流文化学科交換客員教授 (在埼玉)

Lee Nae-Chan Huey 李來贊 [韓国] 男：慶應義塾大学 [博士] (管理工学)：漢城大学経済学部教授 (在ソウル)

Nam Ki-Jeong 南基正 [韓国] 男：東京大学 [博士] (国際関係論)：ソウル大学日本研究所 HK 教授 (在ソウル)

Park Keun-Hong 朴根弘 [韓国] 男：東京工業大学 [博士] (生命理工学)

Qiao Xin 喬辛 [中国] 男：東京工業大学 [博士] (無機材料工学)

Trede, Melanie Maria トレーデ、メラニー [ドイツ] 女：ハイデルベルグ大学／学習院大学 [博士] (日本美術史)：ハイデルベルグ大学東洋美術史研究所教授 (在ハイデルベルグ)

Zhao Qing 趙青 [中国] 女：お茶の水女子大学 (比較文化)

Zhu Tingyao 朱庭耀 [中国] 男：東京大学 [博士] (船舶海洋工学)：日本海事協会技術研究所首席研究員／ハルビン工科大学客員教授

【1997年度奨学生】

De Maio, Silvana デマイオ、シルバーナ [イタリア] 女：東京工業大学 [博士] (日本語学)：ナポリ東洋大学准教授 (在ナポリ)

Fang Meili 方美麗 [台湾] 女：お茶の水女子大学 [博士] (言語学)：(在ロンドン)

Isananto, Winurshito イサナント、ウィンルシト [インドネシア] 男：慶應義塾大学 [博士] (応用化学)：インドネシア工業省マナド工業規格と研究研究所：(在インドネシア)

Kim Woe-Sook 金外淑 [韓国] 女：早稲田大学 [博士] (健康科学)：兵庫県立大学看護学部心理学系教授 (在神戸)

Katagiri, Laohaburanakit Kanokwan (Noi) 片桐カノックワン、ラオハブラナキット (ノイ) [タイ] 女：筑波大学 [博士] (言語学、日本語教育)：チュラロンコン大学文学部日本語講座准教授 (在バンコク)

Lee Hyang-Chul 李香哲 [韓国] 男：一橋大学 [博士] (経済学)：光云大学日本学科教授 (在ソウル)

Li Enmin 李恩民 [中国] 男：一橋大学 [博士] (社会学)：桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群教授

Nizamidin Jappar ニザミディン ジャッパル [アメリカ] 男：東京大学 [博士] (応用化学)：キモト・テック取締役 (在米ジョージア)

Wang Yuepeng 王岳鵬 [中国] 男：東京大学 [博士] (医学)：上海交通大学医学院附属新華病院科研中心 (在上海)

Williams, Duncan ウィリアムズ、ダンカン [イギリス] 男：ハーバード大学／上智大学 [博士] (宗教学)：南カルフォルニア大学宗教学部長 (在ロサンゼルス)

Zhang Shao-min 張紹敏 [中国] 男：東京大学 [博士] (医学)：ペンシルベニア州立大学医学部神経と行動学助教授 (在米ハーシー)

【1998年度奨学生】

Adiole, Emmanuel アディオレ、エマニュエル [ナイジェリア] 男：東京大学 [博士] (政治学)：ナイジェリア・エネルギー環境研究所主任研究員 (在ナイジェリア)

Cao Bo 曹波 [中国] 男：早稲田大学 [博士] (建設工学)：株式会社北京 NTT データジャパン

He Zuyuan 何祖源 [中国] 男：東京大学 [博士] (先端学際工学／光電子工学)：上海交通大学光ファイバ技術国家重点実験室教授 (在上海)

Hu Jie 胡潔 [中国] 女：お茶の水女子大学 [博士] (文学)：名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授 (在名古屋)

Kim Jaesung 金宰晟 [韓国] 男：東京大学 (仏教学)：仏教大学院大学 (在ソウル)

La Insook 羅仁淑 [韓国] 女：早稲田大学修了、流通経済大学 [博士] (経済学)：国士館大学政経学部非常勤講師、NPO 暖流代表

Lee Joo-Ho 李周浩 [韓国] 男：東京大学 [博士] (電子工学)：立命館大学情報理工学部情報コミュニケーション学科教授 (在滋賀)

Mailisha マイリーサ [中国(内モンゴル)] 女：一橋大学 [博士] (社会学)：昭和女子大学人間文化学部特命教授

Sun Yanping 孫艶萍 [中国] 女：東京大学 [博士] (医学)：コロンビア大学医学部准教授 (在ニューヨーク)

Wu Hongmin 呉弘敏 [中国] 女：東京工業大学 [博士] (精密工学)：フクダ電子 (株)

Xu Xiaoyuan 許曉原 [中国] 女：東京大学 [博士] (農業生命科学)：コロンビア大学ナオミベリーセンター研究員 (在ニューヨーク)

【1999年度奨学生】

Coimbra, Maria Raquel Moura コインブラ、マリア・ハケウ・モウラ [ブラジル] 女：東京水産大学 [博士] (資源育成学)：ベルナンブコ州立大学農水学部応用遺伝子研究室助教授 (在ブラジル)

Hong Kyung-Jin 洪京珍 [韓国] 女：東京工業大学 [博士] (化学環境工学)：韓国環境省 (在ソウル)

Hou Yankun 侯延昆 [中国] 男：東京工業大学 [博士] (物理電子化学／薬学)：UBS Investment Research (在香港)

Ju Yan 具延 [中国] 男：筑波大学 [博士] (農学)：メッツォペーパージャパン (株)

Li Gangzhe 李綱哲 [中国] 男：立教大学 (経営学／経済学)：北陸大学未来創造学部教授 (在金沢)

Musikasinthorn Prachya ムシカシントーン、プラチャー [タイ] 男：東京水産大学 [博士] (資源育成学)：カセサート大学水産学部助教授 (在バンコク)

Vu Thi Minh Chi プティミンチー [ベトナム] 女:一橋大学 [博士] (地域研究):ベトナム社会科学院人間科学研究所研究員 (在ハノイ)

Wang Dan 王旦 [中国] 男:東京藝術大学 [博士] (音楽):パイオリニスト/昭光物産 (株)

Yang Jie Chi 楊接期 [台湾] 男:東京工業大学 [博士] (教育工学):国立中央大学網路学習科技研究所教授 (在台湾桃園)

Yeh Wen-chang 葉文昌 [台湾] 男:東京工業大学 [博士] (電子物理工学):島根大学総合理工学研究科准教授 (在松江)

Zhou Haiyan 周海燕 [中国] 女:東京医科歯科大学 [博士] (医学):たてやまクリニック院長 (在富山県)

[2000年度奨学生]

Jin Zhengwu 金政武 [中国] 男:東京工業大学 [博士] (物質科学):ソニー株式会社

Jung Jae Ho 鄭在皓 [韓国] 男:慶應義塾大学 [博士] (物質科学):三星電子LCD総括LCD開発室 (在天安)

Jung Sung Chun 鄭成春 [韓国] 男:一橋大学 [博士] (経済学):対外経済政策研究院 (KIEP) (在ソウル)

Ko Hee Tak 高熙卓 [韓国] 男:東京大学 [博士] (総合文化):(株)グローバル・ニュース (Global News) 代表理事 (在済州)

Lim Chuan-Tiong 林泉忠 [香港] 男:東京大学 [博士] (国際政治学):中央研究院近代史研究所副研究員 (在台北)

Molnar Margit モルナール、マルギット [ハンガリー] 女:慶應義塾大学 [博士] (経済学):OECD研究員 (在パリ)

Naiwala Pathirannehelage Chandrasiri ナイワラパティランネヘラゲチャンドラシリ [スリランカ] 男:東京大学 [博士] (電子情報):工学院大学情報学部准教授

Ren Yong 任永 [中国 (内モンゴル)] 男:群馬大学 [博士] (医学):ニューヨーク州立大学医学部研究員 (在米バッファロー)

Suzuki Sato Hiromi スズキサトウ、ヒロミ [メキシコ] 女:慶應義塾大学 (経済学):(在東京)

Wu Yaping 武玉萍 [中国] 女:千葉大学 [博士] (医学):理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター (CDB) (在神戸)

Xu Xiangdong 徐向東 [中国] 男:立教大学 [博士] (社会学):(株)中国市場戦略研究所代表取締役

Zeng Zhinong 曾支農 [中国] 男:東京大学 [博士] (アジア文化):(在武漢)

[2001年度奨学生]

Borjigin, Burensain ボルジギン、ブレンサイン [中国 (内モンゴル)] 男:早稲田大学 [博士] (東洋史):滋賀県立大学人間文化学部准教授 (在彦根市)

Fan Jianting 範建亭 [中国] 男:一橋大学 [博士] (経済学):上海財経大学国際工商管理学院助教 (在上海)

Jeon Jin Hwan 全振煥 [韓国] 男:東京工業大学 [博士] (建築材料):鹿島建設 (株) 技術研究所主任研究員

Jiang Huiling 蔣惠玲 [中国] 女:横浜国立大学 [博士] (電子情報工学):(株)NTTドコモ北京研究所首席研究員 (在北京)

Jin Xianghai 金香海 [中国] 男:中央大学 [博士] (政治学):逝去

Kostov, Vlaho コストフ、ブラホ [マケドニア/イタリア] 男:東京都立科学技術大学 [博士] (システム工学):パナソニック・ヨーロッパ社 (在フランクフルト)

Lee Hyun-Young 李炫瑛 [韓国] 女:お茶の水女子大学 [博士] (比較文化):建国大学校師範大学日本語教育科助教 (在ソウル)

Lee Young-Suk 李英淑 [韓国] 女:筑波大学 [博士] (教育学):釜山大学校師範大学数学教育科非常勤講師 (在釜山)

Liang Xingguo 梁興国 [中国] 男:東京大学 [博士] (化学生命工学):中国海洋大学食品科学と工程学院教授 (在青島)

Lwin U Htay ユティルイン [ミャンマー] 男:東京医科歯科大学 [博士] (社会医学及び公衆衛生学):ロイヤル・ルイン・メディカルセンター所長 (在ヤンゴン)

Qi Jin Feng 奇錦峰 [中国 (内モンゴル)] 男:東京医科歯科大学 [博士] (薬理学):広州中薬薬科大学中薬学院教授 (在広州)

Sri Sumantyo, Josaphat Tetuko スリスマンティヨ、ヨサファットテトコ [インドネシア] 男:千葉大学 [博士] (人工システム科学):千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授

[2002年度奨学生]

Baek Insoo 白寅秀 [韓国] 男:早稲田大学 [博士] (商学):(在ソウル)

Chen Tzu-Ching 陳姿菁 [台湾] 女:お茶の水女子大学 [博士] (国際日本学):開南大学応用日本語学科/応用中国語学科副教授 (在台北)

Jo Gyuhan 曹奎煥 [韓国] 男:早稲田大学 [博士] (地質学):JX新日鉱石開発 (株) (在マレーシア)

Hu Biangqun 胡炳群 [中国] 男:日本工業大学 [博士] (システム工学):日豊興業株式会社 (在名古屋/広州)

Iko Pramudiono イコプラムディオノ [インドネシア] 男:東京大学 [博士] (電子情報工学):インドネシア三井物産 (在ジャカルタ)

Mandah, Ariunsaihan マンダフ、アリウンサイハン [モンゴル] 男:一橋大学 [博士] (地域社会学):(在米カンザス)

Mukhopadhyaya Ranjana ムコパディヤヤ、ランジャナ [インド] 女:東京大学 [博士] (宗教学宗教学):デリー大学・東アジア研究科准教授 (在デリー)

Park Young-June 朴榮潜 [韓国] 男:東京大学 [博士] (国際社会科学):国防大学校安全保障大学院教授 (在ソウル)

Sun Jianjun 孫建軍 [中国] 男:国際基督教大学 [博士] (日本語学):北京大学外国語学院准教授

Wang Xi 王溪 [中国] 男:東京大学 [博士] (電子情報工学)

Yimit, Abliz イミテ、アブリズ [中国 (ウイグル)] 男:横浜国立大学 [博士] (人工環境システム):新疆大学化学化工学院教授 (在ウルムチ)

Yu Xiaofei 于晓飛 [中国] 女:千葉大学 [博士] (社会文化科学):日本大学法学部准教授

[2003年度奨学生]

Chae Sang Heon 蔡相憲 [韓国] 男:東京農工大学 [博士] (生物生産学):天安連庵大学新環境園芸科教授 (在韓国天安)

Chang Kuei-e 張桂娥 [台湾] 女:東京学芸大学 [博士] (学校教育学 (言語文化)):東呉大学日本語文学系副教授 (在台北)

Husel フスレ [中国 (内モンゴル)] 男:東京外国語大学 [博士] (地域文化):昭和女子大学人間文化学部国際学科教授

Kim Hyeon Wook 金賢旭 [韓国] 女:東京大学 [博士] (総合文化 (表象文化)):国民大学国際学部助教 (在ソウル)

Kwak Jiwoong 郭智雄 [韓国] 男:立教大学 [博士] (経営学):九州産業大学商学部商学科准教授 (在福岡)

Lin Shaoyang 林少陽 [中国] 男:東京大学 [博士] (総合文化 (超越文化)):東京大学総合文化研究科准教授

Lu Yuefeng 陸躍鋒 [中国] 男:東京海洋大学 (海洋情報システム):Merit Intelligence Development Centre, Director (在トロント)

Piao Zhenji 朴貞姬 [中国] 女:明海大学 [博士] (応用言語学):北京語言大学外国語学院日本語学部教授 (在北京)

Tisi, Maria Elena ティシ、マリアエレナ [イタリア] 女:白百合女子大学 [博士] (児童文学):ポローニャ大学、ペルージャ外国人大学非常勤講師 (在ポローニャ)

Yamaguchi, Ana Elisa ヤマグチ、アナエリザ [ブラジル] 女:一橋大学 [博士] (社会学):(在ロンドン)

Yun Hui-suk ユンヒスク [韓国] 女:東京大学 [博士] (材料学):韓国機械研究院付属材料研究所 (KIMS) (在韓慶南道昌原)

Zang LI 臧俐 [中国] 女:東京学芸大学 [博士] (学校教育学 (教育方法論)):東海大学短期大学部准教授

[2004年度奨学生]

Ampong, Beryl Nyamekye アンボン、ベリル・ニヤメケ [ガーナ] 女:東京医科大学 [博士] (薬理学):(在ワシントンD.C.)

Chin, Angelina Yan Yan チン、アンジェリーナ [アメリカ] 女:カリフォルニア大学サンタクルーズ校/お茶の水女子大学 [博士] (ジェンダー研究):Pomona College 准教授 (在カリフォルニア)

Khomenko, Olga ホメenko、オリガ [ウクライナ] 女:東京大学 [博士] (地域文化研究):キエフ モヒラ アカデミー国立大学文学部歴史学科准教授、ジャーナリスト (在キエフ)

Lee Jea Woo 李 济宇 [韓国] 男:早稲田大学 [博士] (地盤地震工学):Worley Parsons (在メルボルン)

Lee Sung Young 李 承英 [韓国] 女:筑波大学 [博士] (言語学):光云大学日本学科 (在ソウル)

Meng Zimin 孟子敏 [中国] 男:筑波大学 [博士] (言語学):松山大学人文学部教授 (在松山)

Mullagildin, Rishat ムラギルディン、リシャット [ロシア] 男:慶応大学 (環境デザイン):RAUM Architects 社長 (在ロシア、ウファ)

Napoleon ナポレオン [インドネシア] 男:東京工業大学 [博士] (機械制御システム):SMBC 日興証券

Sonntag, Mira ゾンターク、ミラ [ドイツ] 女:東京大学 [博士] (宗教学):立教大学文学部キリスト教学科准教授

Tsai Ying-hsin 蔡 英欣 [台湾] 女:東京大学 [博士] (法学):国立台湾大学法学部副教授 (在台北)

Yang Myung Ok 梁 明玉 [韓国] 女:お茶の水女子大学 [博士] (人間発達科学):お茶の水女子大学アカデミック・プロダクション特任リサーチフェロー

Ye Sheng 叶 盛 [中国] 男:東京大学 [博士] (先端学際工学):東莞九域星医薬科技有限公司 (在香港)

[2005年度奨学生]

Bao Lian Qun 包 聯群 [中国 (内モンゴル)] 女:東京大学 [博士] (言語情報科学):大分大学経済学部准教授 (在大分)

Han Junqiao 韓 珺巧 [中国] 女:早稲田大学 [博士] (建築学):(在パークレー)

Han Kyoung Ja 韓 京子 [韓国] 女:東京大学 [博士] (日本文化研究):慶熙大学校日本語学科助教授 (在ソウル)

Jiang Susu 江 蘇蘇 [中国] 女:横浜国立大学 [博士] (物理情報工学):東芝セミコンダクター社 MIT ビジネススクール (在ボストン)

Kim Bumsu 金 範洙 [韓国] 男:東京学芸大学 [博士] (社会系教育 (歴史)): (社) 国際交流振興協会理事長、東京学芸大学特命教授 (国際担当)、(韓国) 国立公州大学客員教授、(中国) 湖南師範大学客員教授

Kim Yeonkyeong 金 娟鏡 [韓国] 女:東京学芸大学 [博士] (心理学):鹿児島大学教育学部家政専修准教授 (保育・児童学担当)

Lan Hong Yueh 藍 弘岳 [台湾] 男:東京大学 [博士] (地域文化研究):国立交通大学社会と文化研究所副教授 (在台北)

Tenegro, Brenda Resurecion Tiu テネグラ、ブレンダ レスレション ティウ [フィリピン] 女:お茶の水女子大学 [博士] (人間発達科学):LINGO24, Inc. (在フィリピンセブ島)

Vo Chi Cong ヴォー チー コン [ベトナム] 男:東京工業大学 (数理・計算科学):(株) トリニティセキュリティシステムズ

Wang Xueping 王 雪萍 [中国] 女:慶応義塾大学 [博士] (政策メディア):東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科准教授

Wong Kin Foon Kevin 王 健歡 [香港] 男:総合研究大学院 [博士] (統計科学):Citizens Bank, Quantitative Analyst (在ボストン)

Zhao Changxiang 趙 長祥 [中国] 男:一橋大学 [博士] (商学)

[2006年度奨学生]

Chu Xuan Gao チュ・スワン・ザオ [ベトナム] 男:総合研究大学院大学 [博士] (文化人類学):ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員 (在ハノイ)

Hu Xiuying 胡 秀英 [中国] 女:千葉大学 [博士] (看護教育学):四川大学華西看護学部華西病院准教授 (在成都)

Hyun Seungsoo 玄 承洙 [韓国] 男:東京大学 [博士] (地域文化):統一研究院研究員 (在ソウル)

Li Chengri 李 成日 [中国] 男:慶応義塾大学 [博士] (政治学):中国社会科学院アジア太平洋・グローバル (全球) 研究院 (在北京)

Liang Yun-hsien 梁 蘊嫻 [台湾] 女:東京大学 [博士] (比較文化):元智大学応用外語学科助理教授 (在台北)

Mohottala, Shirmila モホッタラ、シャミラ [スリランカ] 女:東京大学 [博士] (情報理工学):(在スリランカ)

Pantcheva, Elena Latchezarova パンチュワ、エレナ [ブルガリア] 女:千葉大学 [博士] (日本研究):(在ブルガリア)

Seo Kyoung Sook 徐 景淑 [韓国] 女:慶応義塾大学 (美学美術史):(在ソウル)

Sim Choon Kiat シム チュンキヤット [シンガポール] 男:東京大学 [博士] (教育学):昭和女子大学人間社会学部准教授

Sun Junyue 孫 軍悦 [中国] 女:東京大学 [博士] (言語情報科学):東京大学教養学部専任講師

Weerasinghe, Nalin ウィーラシンハ、ナリン [スリランカ] 男:電気通信大学 [博士] (電子工学):シュルンベルジェ (株) 電子エンジニア (在ヒューストン)

Woo Seonghoon 禹 成勲 [韓国] 男:東京大学 [博士] (建築学):(在仁川)

[2007年度奨学生]

Chan Chai-fong 詹 彩鳳 [台湾] 女:東京大学 (地域文化研究):(在台北)

Deng Fei 鄧 飛 [中国] 男:東京大学 [博士] (先端エネルギー学):Super C Inc. 代表 (在深圳)

Gangbagana ガンバガナ [中国 (内モンゴル)] 男:東京外国語大学 [博士] (地域文化研究):国際教養大学基盤教育助教 (在秋田)

Kim Minsuk 金 政淑 [韓国] 女:早稲田大学 [博士] (建築学):日本ミクニヤ株式会社 (在京都)

Lee Eungyong 李 垠庚 [韓国] 女:東京大学 [博士] (地域文化研究):ソウル大学日本研究所 HK 研究教授 (在ソウル)

Mijiti, Abuduxukuer メジテ、アブドシュクル [中国 (ウイグル)] 男:東京医科大学 [博士] (外科学):新疆ウイグル自治区カシュガル地区第一人民医院腫瘍センターセンター長 (在カシュガル)

Park Sohyun 朴 昭炫 [韓国] 女:東京大学 [博士] (文化資源学):韓国文化観光研究院文化芸術政策担当責任研究員 (在ソウル)

Porrás Rojas Oscar ボラス、ロハス オスカル [コスタリカ] 男:東京海洋大学 [博士] (応用環境システム学):コスタリカ大学太平洋岸校副学長 (在コスタリカ、プンタレナス)

Quan Mingai 権 明愛 [中国] 女:日本社会事業大学 [博士] (社会福祉学):十文字学園女子大学人間生活学部講師

Wang Jian Hong 王 劍宏 [中国] 男:早稲田大学 [博士] (建設工学):(株) 日本工営中央研究所研究員

Ohinata Mine (Yan Hainian) 大日向美音 (顔 海念) [中国] 女:東京大学 [博士] (国際保健学):(株) 中外製薬医薬安全性本部 PV サイエンス部

Yaroslav, Shulatov ヤロ斯拉ブ、シュラトフ [ロシア] 男:慶応義塾大学 [博士] (政治学):神戸大学大学院国際文化学研究所准教授 (在神戸)

[2008年度奨学生]

Feng Kai 馮 凱 [中国] 男:東京大学 [博士] (機械工学):湖南大学機械学院教授 (在長沙)

Hong Yunshin 洪 ユンシン [韓国] 女:早稲田大学 [博士] (国際関係学):早稲田大学国際言語文化研究所客員研究員、青山学院大学非常勤講師

Shiohara Vroni Friederike 塩原フローニ・フリデリケ [ドイツ/スイス] 女:東京芸術大学 [博士] (文化財保存学):トヨタ自動車

Liu Jian 劉 健 [中国] 女:北京大学/早稲田大学 [博士] (日本語文化):首都師範大学専任講師 (在北京)

Lkhamsuren, Lkhagvasuren ハムスレン、ハグワスレン [モンゴル] 男:早稲田大学 (国際関係学)

Nemekhjargal ネメフジャルガル [中国 (内モンゴル)] 男:亜細亜大学 [博士] (経済学):内モンゴル大学モンゴル学研究所 (在フフホト)

Phuong, Kimchhayarasy プアン、キムチャイヤラシー [カンボジア] 女:宇都宮大学 [博士] (物性工学):(在東京)

Song Gang 宋 剛 [中国] 男:桜美林大学 [博士] (地域文化):北京外国語大学日本語学部専任講師 (在北京)

Võrno, Heli-Liis ヴェルノ、ヘリ リース [エストニア] 女:学習院大学 (哲学):(在ロンドン)

Wang Wei 王 偉 [中国] 男:千葉大学 [博士] (人工システム):南京信息工程大学教授 (在南京)

Xiu Zhen 修 震 [中国] 男:東京工業大学 [博士] (機械制御システム):カリフォルニア大学サンディエゴ校留学 (在サンディエゴ)

Yuk Jaehwa 陸 載和 [韓国] 男: 武蔵野美術大学 (造形芸術): 武蔵野美術大学非常勤講師

Zhang Jian 張 建 [中国] 男: 東京大学 [博士] (教育学): 一般社団法人東アジア教育研究所副所長

[2009 年度奨学生]

Choi Eunseok 崔 恩碩 [韓国] 男: 国民大学/東京大学 [博士] (日本史学): 駐広島韓国総領事館先任研究員 (在広島)

Darwish, Housam ダルウィッシュ、ホサム [シリア] 男: 東京外国語大学 [博士] (地域文化研究): 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所

Kaba Melek カバメレキ [トルコ] 女: 筑波大学 [博士] (文芸・言語): ネヴシエヒル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学東洋言語東洋文学科 助教授 (在トルコ国デニスリ)

Kim Youngsoon 金 英順 [韓国] 女: 立教大学 [博士] (日本文学): 立教大学文学部非常勤講師

Kwak Youngjoo 郭 榮珠 [韓国] 男: 千葉大学 [博士] (地球生命圏科学): (独) 土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) 専門研究員

Kwon Nam-hee 権 南希 [韓国] 女: 東京大学 (国際法): 関西大学政策創造学部助教授 (在大阪)

Rinchin リンチン [中国 (内モンゴル)] 男: 東京外国語大学 [博士] (地域文化研究): 内モンゴル大学モンゴル学研究中心 (在フフホト)

Schicketanz, Erik Christopher シッケタンツ、エリック [ドイツ] 男: 東京大学 [博士] (宗教学宗教学史学): (在ドイツ)

Shermatov Ulugbek シェルマトフ・ウルグベック [ウズベキスタン] 男: 明治大学 [博士] (民法学): ウズベキスタン最高裁判所上席法務官 (在タシケント)

Son Jounga 孫 貞阿 [韓国] 女: 東京大学 [博士] (森林科学): 国立山林科学院森林病虫害研究科 (在ソウル)

Veldkamp, Elmer フェルトカンブ、エルメル [オランダ] 男: 東京大学 [博士] (文化人類学): ライデン大学日本学研究所専任講師 (在ライデン)

Ye Kyaw Thu イェ チョウ トウ [ミャンマー] 男: 早稲田大学 [博士] (国際情報通信学): (独) 情報通信研究機構 (NICT) ユニバーサルコミュニケーション研究所研究員 (在京都)

Zhu Lin 朱 琳 [中国] 女: 東京大学 [博士] (アジア政治思想史): 東北大学大学院国際文化研究科講師 (在仙台)

[2010 年度奨学生]

Phramahachatpong Katapuño プラマハチャポン [タイ] 男: 東洋大学 [博士] (仏教学): (在米シアトル)

Choi Jung Eun 崔 禎恩 [韓国] 女: 東京藝術大学 [博士] (文化財保存学): 韓国国立民俗博物館研究員 (在ソウル)

Kiatkobchai Siratsanan キャアコブチャイ・スィラッサナン [タイ] 女: 学習院大学 [博士] (日本語日本文学): (株) アートボックス (在バンコク)

Kim Kyongtae 金 キョンテ [韓国] 男: 高麗大学/東京大学 [博士] (歴史学): 高麗大学文科大学研究教授 (在ソウル)

Lee Hyun Bon 李 賢凡 [韓国] 男: 東京工業大学 [博士] (材料工学): (株) POSCO 研究員 (在韓国全羅南道)

Li Jun 李 軍 [中国] 女: 早稲田大学 [博士] (国語教育学): 早稲田大学、学習院大学非常勤講師

Lu Liang 蘆 亮 [中国] 男: 東京工業大学 [博士] (原子核工学): 中国科学院近代物理研究所研究員 (在蘭州)

Magid, Evgeni マギッド、イヴゲニ [イスラエル/ロシア] 男: 筑波大学 [博士] (知能機能システム): イノポリス大学教授 (在ロシア・カザン)

Mya Dwi Rostika ミヤ・ドウィ・ロスティカ [インドネシア] 女: 国士館大学 [博士] (政治学): 国士館大学非常勤講師、アジア・日本研究所客員研究員、大東文化大学非常勤講師

Vigouroux, Mathias Dominique Yves ヴィグル、マティアス [フランス] 男: 二松学舎大学 [博士] (中国学): 二松学舎大学文学部都市文化デザイン学科専任講師

Sakurai Shin (Wang Xin) 櫻井慎 (王 昕) [中国] 男: 東京医科歯科大学 [博士] (先端医療開発学): ローム株式会社 (在京都)

Yoon Jin-Hee 尹 ジンヒ [韓国] 女: お茶の水女子大学 [博士] (ジェンダー学際研究): 同志社大学社会学部教育文化学科学科准教授 (在京都)

[2011 年度奨学生]

Chong Soonil 鄭 淳一 [韓国] 男: 早稲田大学 [博士] (アジア地域文化学): 高麗大学校・師範大学・歴史教育科助教授 (在ソウル)

Ho Van Ngoc ホー ヴァン ゴック [ベトナム] 男: 千葉大学 [博士] (建築都市科学): 鹿島建設 (株) 建築設計本部

Kang Moonhee 姜 文熙 [韓国] 女: 日本社会事業大学 (社会福祉学)

Kim Eunhye 金 銀恵 [韓国] 女: ソウル大学/東京大学 [博士] (都市社会学): ソウル大学アジア研究所研究員 (在ソウル)

Kim Soongbae 金 崇培 [韓国] 男: 延世大学/慶應義塾大学 [博士] (国際政治学): 延世大学統一研究院専門研究員 (在ソウル)

Lee Hyojeong 李 孝庭 [韓国] 女: 国際基督教大学 [博士] (比較文化): 延世大学韓国文科専任研究員 (在ソウル)

Li Yanming 李 彦銘 [中国] 女: 慶應義塾大学 [博士] (政治学): 東京大学教養学部国際コミュニケーションセンター特任講師、慶應義塾大学東アジア研究所訪問研究員

Naheya ナヒヤ [中国 (内モンゴル)] 女: 東京大学 [博士] (地域文化): 内蒙古大学蒙古歴史学系歴史学専任主任 (在フフホト)

Park Joonui 朴 准儀 [韓国] 女: ポストン大学/東京大学 [博士] (国際政治経済): 国立シンガポール大学公共政策大学院アジア・グローバリゼーションセンターポスドク研究員 (在シンガポール)

Peng Hao 彭 浩 [中国] 男: 東京大学 [博士] (日本文化研究): 大阪市立大学社会科学系研究院経済学研究科准教授

Piao Wenying 朴 文英 [中国] 女: 東京医科歯科大学 [博士] (脳神経病態学): 東京医科歯科大学ポスドク研究員

Xie Hui-zhen 謝 惠貞 [台湾] 女: 東京大学 [博士] (アジア文化研究): 文藻外語大学日本語学系助教授 (在高雄)

[2012 年度奨学生]

Chen Jing-Young 陳 景揚 [台湾] 男: 東京大学 (文化人類学): (在台湾)

Choi Seung-won 崔 勝媛 [韓国] 女: 東京大学 [博士] (生物科学): 国際基督教大学博士研究員

Dale, Sonja デール、ソニヤ [ノルウェー] 女: 上智大学 [博士] (グローバル社会): 一橋大学社会学部特任講師

Flick, Ulrich フリック、ウルリッヒ [ドイツ] 男: ハイデルベルグ大学/早稲田大学 [博士] (東アジア研究): 東北学院大学教養学部言語文化学科講師 (在仙台)

Han Lingji 韓 玲姬 [中国] 女: 筑波大学 [博士] (情報メディア): 東京国際ビジネスカレッジ国際言語コミュニケーション学科講師

Li Xue 李 雪 [中国] 女: 筑波大学 [博士] (文芸・言語): 寧波大学外国語学院日本語学専任講師 (在寧波)

Oh Jungkeun 呉 正根 [韓国] 男: 横浜国立大学 [博士] (環境リスクマネジメント): 国立環境科学院資源循環研究課研究員 (在仁川)

Park Hyunjung 朴 炫貞 [韓国] 女: 武蔵野美術大学 [博士] (造形芸術): 北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 特任助教授 (在札幌)

Rio, Aaron リオ、アーロン [アメリカ] 男: コロンビア大学/学習院大学 [博士] (日本美術史): ミネアポリス美術館日本・韓国美術学芸員 (在ミネアポリス)

Sung Kihyuk 成 耆赫 [韓国] 男: 明治大学 (日本文学)

Uzum, Abdullah ウズム・アブドゥラ [トルコ] 男: 東京農工大学 [博士] (情報工学): 兵庫県立大学電子情報電気工学科ポスドク研究員 (在神戸)

Yin Feilong 尹 飛龍 [中国] 男: 東京農工大学 [博士] (機械システム工学): 井関農機 (株)

Zheng Xiu 鄭 秀 [中国] 男: 東京医科歯科大学 [博士] (消化器病態学): 東京医科歯科大学消化器内科学外国人研究者

[2013 年度奨学生]

Aroz, Rafael Aingeru アロツ、ラファエル アインゲル [スペイン] 男: 東京大学 (文化・人間情報学): 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス総合政策学部訪問講師 (招聘)

Choi Gayoung 崔 佳英 [韓国] 女: 東京大学 [博士] (社会学): 東京大学学術研究員、大妻女子大学非常勤講師

Hao Liang 郝 亮 [中国] 男: 千葉大学 [博士] (人工システム科学): 天津科学技術大学講師 (在天津)

Hsu Han-Hsiu 許漢修 [台湾] 男:筑波大学 [博士] (生命産業科学): 神戸大学科学技術イノベーション研究科学術研究員

Jin Guiying 金桂英 [中国] 女:早稲田大学 (日本語教育学): 早稲田大学日本語教育研究センター助手

Lee Saebom 李セボン [韓国] 女:東京大学 [博士] (地域文化研究): 延世大学比較社会文化研究所専門研究員 (在ソウル)

Nordström, Karl Johan ノルドストロム、カール ヨハン [スウェーデン] 男:早稲田大学 [博士] (演劇映像学): 都留文科大学国際教育学科講師

Tamayo, Ruiz Efrain Eduardo タマヨ、ルイス エフライン エドアルド [コロンビア] 男:東京大学 [博士] (先端学際工学): (株) 日立製作所日立研究所研究員

Virag, Viktor ヴィラールグ、ヴィクトル [ハンガリー] 男:日本社会事業大学 [博士] (社会福祉学): 長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科講師 (在長崎)

Xie Pu 解璞 [中国] 女:早稲田大学 [博士] (日本語日本文学): 北京大学外国語学院 (在北京)

Zamengo, Massimiliano ザメンゴ、マッシミリアーノ [イタリア] 男:東京工業大学 [博士] (原子核工学): 東京工業大学物質理工学院助教

Zhang Liang 張亮 [中国] 男:慶應義塾大学 [博士] (医学研究): ハーバード大学ブリガム・アンド・ウィメンズ病院神経外科ポスドク研究員 (在ボストン)

[2014年度奨学生]

Abdin, Mohamed Omer アブディン、モハメド オマル [スーダン] 男:東京外国語大学 [博士] (総合国際学): 学習院大学法学部政治学科特別客員教授

Cakir, Murat チャクル、ムラット [トルコ] 男:筑波大学 (教育基礎学): 関西外国語大学特任講師 (在大阪)

Chae Kyeonghoon 蔡景勲 [韓国] 男:東京芸術大学 (映像メディア学): 韓国映画振興委員会 (KOFIC) 研究員 (在韓国)

Gerelchuluun, Ariungerel ゲレルチュルン、アリウンゲレル [モンゴル] 女:筑波大学 [博士] (疾患制御医学): (在ヴァージニア)

Goginashvili, David ゴギナシュヴィリ、ダヴィド [グルジア] 男:慶應義塾大学 [博士] (政策メディア): 慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員

Hu Yanhong 胡艶紅 [中国] 女:筑波大学 [博士] (歴史・人類学): 江戸東京博物館契約職員 (専門調査員)

Kim Taehee 金兌希 [韓国] 女:慶應義塾大学 [博士] (政治学): コンスタンツ大学非常勤研究員、社会科学データ分析修士課程 (在ドイツ・コンスタンツ)

Li Hui 李暉 [中国] 女:東京大学 [博士] (建築学): 奈良文化財研究所客員研究員 (在奈良)

Li Ting 李婷 [中国] 女:早稲田大学 (日本語教育学): 早稲田大学大学院日本語教育研究科助手、聖学院大学非常勤講師

Mohammad, Jakfar Idrus ムハッマール、ジャクファール・イドルス [インドネシア] 男:国士館大学 (政治学): 国士館大学 21 世紀アジア学部非常勤講師、国士館大学アジア・日本研究センター客員研究員

Ryu Chunghee 柳忠熙 [韓国] 男:東京大学 [博士] (比較文学比較文化): 東京大学多文化共生・統合人間学プログラム (IHS) 特任研究員

Wang Huijun 王慧雋 [中国] 女:早稲田大学 (日本語教育学): 早稲田大学日本語教育研究センター助手

[2015年度奨学生]

Burítica Alzate, Jiliana ブリティカ アルサテ、フリアナ [コロンビア] 女:国際基督教大学 (アーツ・サイエンス)

Cassim, Laila Frances カセム、ライラ・フランセス [イギリス] 女:東京芸術大学 [博士] (美術): 東京大学先端技術研究センター特任助教

Cho, Guk 趙国 [韓国] 男:早稲田大学 (人文科学)

Feltens, Frank フェルテンズ、フランク [ドイツ] 男:コロンビア大学 / 学習院大学 [博士] (美術史考古学): フリーア美術館ポスドク研究員 (在ワシントン DC)

Giglio, Emanuele Davide ジッリオ、エマヌエーレ ダヴィデ [イタリア] 男:東京大学 (アジア文化研究): 身延山大学東洋文化研究所研究員

Grib, Dina グリブ、ディーナ [ロシア] 女:首都大学東京 (人間科学)

Kim, Yullee 金律里 [韓国] 女:東京大学 (基礎文化研究): (在ソウル)

Li, He-Shu 李赫書 [台湾] 男:東京大学 (アジア文化研究): 東京大学大学院人文社会系研究科助教

Moon, Kyungnam 文景楠 [韓国] 男:東京大学 [博士] (哲学): 東北学院大学教養学部言語文化学科学科准教授 (在仙台)

Park, Wonhwa 朴源花 [韓国] 女:東京大学 (国際社会科学):

Yan, Shulan 顔淑蘭 [中国] 女:早稲田大学 [博士] (教科教育学): 社会科学院文学研究所比較文学・世界文学研究室ポスドク研究員 (在北京)

Yang, Yu Gloria ヤン、ユー グロリア [中国] 女:コロンビア大学 / 東京大学 (美術史): コロンビア大学非常勤講師 (在ニューヨーク)

[2016年度奨学生]

Chang, Wei-Jung 張瑋容 [台湾] 女:お茶の水女子大学 (ジェンダー学際研究): 武蔵大学社会学部非常勤講師、桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群非常勤講師

Cho, Ahra 曹娥羅 [韓国] 女:ソウル大学 / 慶應義塾大学 (国際地域学)

Choi, Yurina 崔ユリナ [韓国] 女:武蔵野美術大学 (造形美術)

Hong, Sung-min 洪性珉 [韓国] 男:早稲田大学 [博士] (人文科学): 早稲田大学文学学術院総合人文科学研究センター助手

Jeon, Sangryul 全相律 [韓国] 男:東京大学 (言語情報科学): 神田外国語大学外国語学部アジア言語学科学科非常勤講師、神奈川大学外国語学部国際文化交流学科学科非常勤講師、帝京大学外国語学部外国語学科学科非常勤講師

Jiang, Jianwei 蒋建偉 [中国] 女:早稲田大学 (人文科学)

Lamsal, Bikash ラムサル、ピカス [ネパール] 男:足利工業大学 [博士] (情報・生産工学): 鹿島建設技術研究所研究員

Lee, Ji Hyeong 李志炯 [韓国] 男:千葉大学 (デザイン科学)

Lin, Qian Qian 林茜茜 [中国] 女:早稲田大学 [博士] (教科教育学)

Morrison, Lindsay Ray モリソン、リンジー レイ [アメリカ] 女:国際基督教大学 (アーツ・サイエンス): 武蔵大学人文社会学部英語英米文化学科学科助教

Nam, Euiyoung 南衣映 [韓国] 女:東京大学 (学際情報学)

Noh, Jooeun 盧ジュウン [韓国] 女:東京大学 (学際情報学)

[2017年度奨学生]

Akbari, Hourieh アキバリ、フーリエ [イラン] 女:千葉大学 (公共研究)

Bajracharya, Dinu バズラチャルヤ、ディヌ [ネパール] 女:お茶の水女子大学 (人間発達科学)

Chen, Yan 陳奥 [中国] 女:東京大学 (超域文化科学)

Fassbender, Isabel ファスベンダー、イザベル [ドイツ] 女:東京外国語大学 (国際社会)

Guarini, Letizia グアリーニ、レティツィア [イタリア] 女:お茶の水女子大学 (比較社会文化学)

Kim, Do-young 金跳咏 [韓国] 男:総合研究大学院大学 (日本歴史研究)

Kindstrand, Love シンドストラン、ロヴェ [スウェーデン] 男:シカゴ大学 / 上智大学 (比較文化研究)

Kolodziej, Magdalena コウオジェイ、マグダレナ [ドイツ・ポーランド] 女:デューク大学 / 早稲田大学 (Art, Art History Visual Studies, Japanese Art History) (リサーチフェロー)

Ofosu, Joseph Ampadu オフォス、ジョセフ アンペドゥ [ガーナ] 男:東京大学 (先端エネルギー工学)

Park, Jonghyuk 朴鍾燦 [韓国] 男:東京慈恵会医科大学 (臨床検査医学)

Sim, Woohyang 沈雨香 [韓国] 女:早稲田大学 (教育基礎学)

Song, Han 宋晗 [中国] 男:東京大学 (日本文化研究)

Yang, Guanqiong 楊冠穹 [中国] 女:東京大学 (アジア文化研究)

2016年度の活動にご協力いただいた皆様

ありがとうございました

奨学事業及び国際交流事業への寄附・賛助・支援

団体

(株) アクト・テクニカルサポート	中外製薬(株)	大和証券(株)
イースト不動産(株)	(株) イリア	鹿島道路(株)
鹿島建設(株)	鹿島リース(株)	鹿島建物総合管理(株)
かたばみ興業(株)	ケミカルグラウト(株)	(株) 三井住友銀行
大興物産(株)	東亜産業(株)	(株) 都市環境エンジニアリング
横浜実業(株)		

個人

渥美伊都子 藤井純一 井手園子 李 鋼哲 朴 哲主 山本尚子 八城政基

SGRA の活動への寄附・賛助・支援

団体

第一交通産業(株)	大興物産(株)	(株) イリア
イースト不動産(株)	(株) 住環境計画研究所	鹿島道路(株)
鹿島建物総合管理(株)	キックマン(株)	(株) 小堀鐸二研究所
九州電力(株)	九州旅客鉄道(株)	門司港運(株)
中鹿營造股份有限公司	西日本鉄道(株)	プラス株式会社
(株) テノ. コーポレーション	(株) 虎屋	TOTO(株)
(株) 安川電機	(株) ゼンリン	

個人

足立憲彦	赤池 豊	明石 康	秋山 豪	新井欣弥	麻生 泰
渥美恵子	渥美直紀・美恵子		包 聯群	曹 波	チャクル ムラット
藤田隆則	福島和彦	船本洋治	ガンバガナ	高 偉俊	原 嘉男
橋本留理子	畑山洋太郎	平泉登水子	星埜弘明	堀田健介	ボルジギン フスレ
井手園子	稲山孝英	井上博允	石田弘幸	石山 勉	岩崎統子
具 延	鹿島順介	金子 宏	狩野正利	片岡達治	鹿取克章
河村一雄	木宮正史	岸本啓子	小松親次郎	近藤寿治	越島啓介
幸田初枝	工藤 捷	功刀欣弥	栗原俊記	栗屋志伸(張桂娥)	
李 恩民	李 鋼哲	梁 興国	林 少陽	前川麻里	前川昭一
三澤正勝	モンテ カセム		森本洋史	村田雄二郎	中島 隆
中村順次	中曾根康弘	中谷俊信	中澤忠義	南 基正	並木寿光
野村維男	沼田正博	岡 昌男	奥村裕一	大澤雄一	大塚 寿
大内聖子	大脇正志	小谷内優	真辺文宏	佐野みどり	佐藤直子
瀬谷啓二	施 建明	島田文雄	嶋津忠廣	塩崎恭久	シュラトフ ヤロスラブ
園部哲史	末永 航	鈴木由美子	高橋信之	高橋 司	竹田 優
竹本 孝	竹内 忍	瀧沢秀利	谷原 正	田代民治	戸河里敏
外岡 豊	東城清秀	遠山幸三	辻 悦子	都築 勉	上野 宏
王 雪萍	呉 弘敏	武 玉萍	徐 向東	山田俊作	山上宏介
柳田耕一	八城政基	于 曉飛	由田哲也	張 建	朱 庭耀

(敬称略)

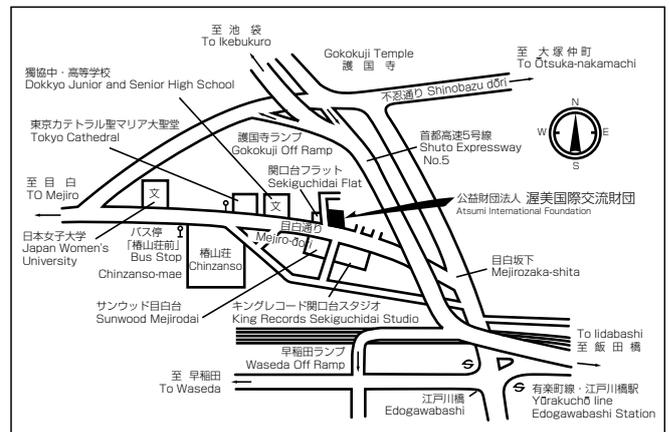
公益財団法人 **渥美国際交流財団**
ATSUMI INTERNATIONAL FOUNDATION

〒112-0014 東京都文京区関口3丁目5番8号
3-5-8 Sekiguchi Bunkyo-ku Tokyo 112-0014 Japan

PHONE: 03-3943-7612 FAX: 03-3943-1512

E-MAIL: aisf-office@aisf.or.jp

<http://www.aisf.or.jp>



- JR山の手線目白駅より、都バス61番 新宿駅西口行、「椿山荘前」下車・徒歩3分
Take The 61 bus from Mejiro Station (JR Yamanote line) and get off at the “Chinzansomae” stop. 3 min. walk.
- 東京メトロ有楽町線「江戸川橋」(出口A1)
下車・徒歩10分
Get off at Edogawabashi station from the Yurakucho subway line. (A1 exit 10 min. walk)

発行者：公益財団法人渥美国際交流財団

発行日：2017年5月26日

発行責任者：渥美伊都子

印刷：株式会社藤印刷



ATSUMI INTERNATIONAL FOUNDATION ANNUAL REPORT 2016

2016 年度 公益財団法人 渥美国際交流財団 年報